

東アジアのリーダーシップを考える
- シンガポールでの東アジア経済サミットに参加して -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

(1) おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。

(2) 先週の土曜日と日曜日、24日と25日にシンガポールに行ってきました。何をするために行ったのかといえますと、スイスで1月末にダボス会議 (World Economic Forum ワールドエコノミックフォーラム) という会議が開かれますが、その同じ主催団体が毎年1回「東アジア経済サミット (East Asia Economic Summit イーストアジアエコノミックサミット)」を開いていますので、それに出席させていただくためです。

(3) これはもう17回くらい開かれているのですが、私は2001年、2002年、2003年、2004年、2005年、2006年(この年は東京で開かれました)そして2007年と、計7回出席させていただいています。今回は約300名の方々が参加していました。日本からは、30数名の方々が参加されていました。経済財政政策担当大臣などを務めた竹中平蔵さん、元内閣府特命担当大臣(少子化・男女共同参画)の猪口邦子さん、何人かの大政の方々、民主党の古川さんなど若い政治家の方々、安倍首相の科学のアドバイザーで、日本学術会議の会長を務めておられる黒川さんなども参加なさっていて、非常に多彩なメンバーでした。私も興味がありましたので参加させていただいたのですが、とても勉強になりました。

2. 東アジアのリーダーシップを考える - 東アジア経済サミットに参加して -

(1) 今回のテーマは、「東アジアのリーダーシップについてどのように考えるか」というものでした。これから、アジアの世紀になりますが、誰がどのようにリーダーシップを発揮したらよいのかということでもあります。日産自動車のカルロス・ゴーンさんも、日本代表として出席なさっており、4～5分ですが立ち話をさせていただきました。カルロス・ゴーンさんのような企業の方がリーダーとしてどう活躍するのか。フィリピン大統領のアロヨさんも出席して演説をなさっていましたし、シンガポールの元首相であるゴー・チョク・トンさんもいらしていましたが、このお二人のように政治家の方がリーダーシップをどう発揮するのか。いろいろな考えがあります。

(2) 会議には、NGOやNPOの方々もいらっしゃいました。ちなみに、NGOとは、Non Governmental Organizationの略で、非政府組織のことです。NPOとは、Non Profit Organizationの略で、民間非営利団体のことです。営利は追求しないけれども、社会的に価値のあることをするという団体で

す。ちなみに、営利を追求しないというのは、つまり、出資者への配当はしないという意味です。

会議では、温暖化の話もずいぶん出ましたし、アジアをこれからどのように開発したらよいか、どのようにして国を富ませたらよいかということも話題に上りました。国が富めば、人々の生活もよくなりますから、それは素晴らしいことです。しかし、会社をどんどん大きくする、まるでロケットのような速さで企業を大きくすることが、果たしてよいことなのかどうかという話もありました。その際には、温暖化の問題、自然破壊の問題も出てきますし、また、人々の力をどのようにつけていくのか、つまり、人材開発をどのようにするのかなどいろいろなテーマが出てきます。それに対して、誰がリーダーシップを発揮したら一番良いかという話し合いも持たれました。

(3) Social Entrepreneur(ソーシャル・アントラプルナー)、social は「社会的な」という意味で、entrepreneur は、業を起こす「起業家」のことです。つまり、必要経費やそこで働く方たちが生活するための給料はもらうでしょうが、出資者への配当はしない、利益は追求しないで社会的な仕事をする人たち、また、NGO のような形で社会のために国際機関を設立したりする人たち、そのような方々が活躍をしながら、それを国や企業が支える。このような考え方も素晴らしいのではないかという話も出ていました。

(4) それから、これは1番大きなテーマの1つですが、中国とインドがめざましい経済成長を遂げていますので、そのスピードに飲み込まれないように、ASEAN(東南アジア諸国連合)の10ヶ国の国々に、日本や韓国が協力していかなければならないという話もありました。日本や韓国はかなり先進国ですので、それほど大きな影響は受けないと思いますが、ASEANの国々は非常に危機感を持っています。ベトナムはこれから素晴らしい勢いで伸びていき、インドネシアもベトナムに負けないように発展していかなければならないのですが、中国とインドの経済力があまりにも急激に伸びすぎてきましたので、それに負けないようにするにはどのようにしたらよいかについて、激しい議論がされました。カンボジアやミャンマーの方々も、それについて、熱く語っていました。

(5) 東アジア経済サミットでは、アジアの方々がとても熱心に、これからの東アジアをどのように引っ張っていくのか、そのリーダーシップは誰がとるのか、政府がとるのか企業がとるのか、民間の Social Entrepreneur というか社会的な仕事をする人がとるのか、NGO がとるのか、皆がそれぞれの役割を果たしながらとるのが一番よいかなどについて、中国とインドがめざましく成長するのを横目に見ながら、激しく議論していました。

2日間の会議でしたが、朝の8:30から夜の10:30まで議論をしました。特に1日目は、首相官邸に招かれて、これからのアジアをどのようにしたらよいかについて夜遅くまで皆で語り合いました。

3. おわりに

今日は、World Economic Forum が開催した「東アジア経済サミット」に参加させていただきましたので、その報告をさせていただきます。皆さん、どのようにお考えでしょうか。

- 2008年9月29日加筆 -